

平床利用が可能なホールの利用実態に関する研究
 —公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究—

Research for the utilization of the flat floor hall
 — Research for the actual state of renovation at public halls —

勝又研究室 1781619 小原 あかり
 Katsumata Laboratory ID 1781619 Kohara Akari

SUMMARY

To make good use of hall, using hall in a variety ways makes an advantage. If hall can put spectator seats away, we can use this hall with spectator seats or without spectator seats. Then one hall can use as concert hall with spectator seat and same hall can use as exhibition room without spectator seats. This sort of flexible hall is a subject of this research. For instance, halls that have RCS. RCS stands for “Rollback chair stand”. This is electrically - powered containable spectator seats in tiers. And flat floor hall that have stacking chair. Both of them have containable spectator seats, but they have different features.

1. 研究目的と背景

ホールの活用を考える際には、平床利用・椅子利用どちらでも利用できるホールは、多目的に利用できるという利点があると考えられる。

平床利用が可能な移動観覧席のあるホールでは、客席を収納・展開することにより、1つのホールで椅子利用・平床利用が可能となる。また、通常の平床のホールでは、手並べ椅子等を使用することにより平床利用・椅子利用どちらのホールとしても利用することが可能となる。椅子利用・平床利用を用いることにより、それぞれの形態で多様な催し物に対応することができるようになると考えられる。

本研究では、このような意味での「客席椅子が可変であり多目的に利用できるホール」の利用実態を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

2.1 アンケート調査

(1) データベース

全国公立文化施設名簿及び各館ホームページをもとに作成したデータベースから研究対象を抽出した。

研究対象として「移動観覧席を持つ平床のホール」「移動観覧席をもたない平床のホール」を、それぞれ分けて抽出作業を行った。これらの施設を対象に、アンケート調査を行う。

(2) アンケート

データベースから抽出したホールを対象にアンケート調査を実施した。「移動観覧席を持つ平床のホール」のアンケートは、2016年度、2017年度にアンケートを実施した。「移動観覧席をもたない平床のホール」のアンケートは、2018年度に実施した。「移動観覧席を持つ平床ホー

ル」に関しては、2016年に実施したアンケートのうち、返送されたものからデータベースに記載されているものを抽出し、それ以外のホール（データベースに記載されているが2016年度に未実施の施設と、2016年度に返送されなかった施設）に関しては2017年度に追加アンケートを行った。有効回答率は「移動観覧席を持つ平床のホール」では2016年度に63%（605/967）（公立文化名簿記載→185/605）、2017年度に45%（34/75）、「移動観覧席を持たない平床のホール」では48%（172/357）となった。

どちらのアンケートもホールの管理者に回答してもらった。アンケートの内容は大きく分けて、一般属性、計画時、現在、将来、についての質問とした。椅子利用・平床使用で行われたことのある催し物や、年間稼働率などを聞いた（表1）。アンケートの内容は、2種類のアンケートの比較ができるようにするため、年間稼働率のように共通して成り立つ質問については、同じ質問としてある。また、以降の文章では分かりやすさを優先し「移動観覧席を持つ平床のホール」を「移動観覧席のホール」、「移動観覧席を持たない平床のホール」を「手並べ椅子のホール」記す。

表1 アンケート内容

	移動観覧席を持つ平床のホール	移動観覧席を持たない平床のホール
一般属性	名称、回答者、客席数、貸出費用、床の仕様、バトンの位置、舞台の仕様	名称、回答者、客席数、椅子の種類、椅子の保管方法、貸し出し費用、床の仕様、舞台の仕様、客席部分の仕様
計画時	導入の提案者、導入理由、導入反対意見の有無、反対理由の有無、反対理由、災害時におけるホールの利用	計画理由、想定していた催し物、災害時における想定
現在	反対していた市民等の意見、管理者側からの意見、費用対効果の有無、椅子本体の満足度、長所・短所、年間稼働率、椅子・平床使用における催し物の内容、収納状態、不具合の有無	備品庫の有無、多目的ホールに関する意見、長所・短所、年間稼働率、椅子・平床使用における催し物の内容、レセプションパーティーの有無、平常状態とその理由、モード変換にかかる時間と人員、頻度
将来	移動観覧席に何を求めるか	改善点、追加したい機能、行いたい演目
その他	意見	意見

3. 平床ホールの全体の傾向

3.1 客席数

移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールの客席数を比較する。回答数の集中している範囲を見ると、基本的には近い規模感であるということが分かる。

回答数が多い席数の範囲に注目する。501～600席では移動観覧席のホールが多く、手並べ椅子のホールは少なくなっている。反対に101～200席では、手並べ椅子のホールの方が多くなっている。このことから、手並べ椅子のホールの方が、移動観覧席のホールに比べて、小規模であるという事が窺える(図1)。

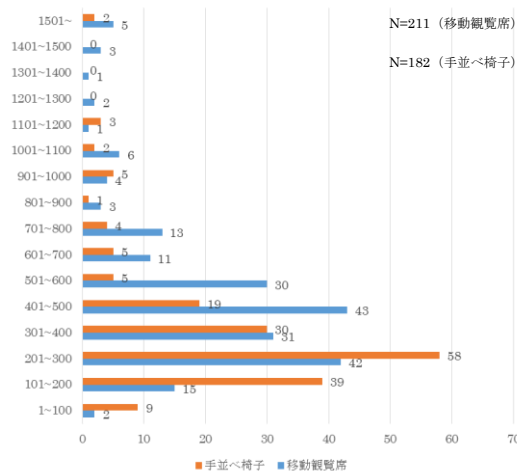


図1 総客席数の比較

3.2 舞台

(1) 移動観覧席の舞台等の高さ・段床

移動観覧席のホールにおいて、移動観覧席以外の部分の床に舞台等の高さ(段床)があるかを聞いたところ、段床のあるホールが約33%、ないホールが約64%であることが分かった。移動観覧席のホールでは、移動観覧席を収納した際、舞台などの部分を含めて完全な平床として利用できるホールの方が主流であることが推測できる(図2)。

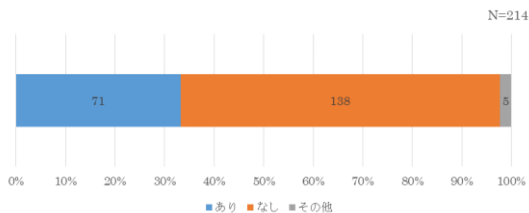


図2 移動観覧席以外の段床の有無

(2) 手並べ椅子のホールの舞台の高さ

手並べ椅子のホールにおいて、舞台部分は客席・平床部分に比べて高くなっているかを聞いたところ、約79%が舞台の方が高く、約9%が同じ高さであると回答した(図3)。

手並べ椅子のホールでは、高さのある舞台の方が主流であることが推測できる。

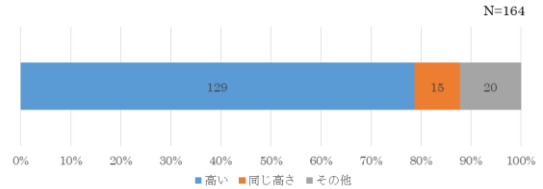


図3 手並べ椅子のホールの舞台高さ

(3) 舞台の比較

移動観覧席のあるホールでは、高さのある舞台を持たないものの方が多いが、手並べ椅子のホールでは、高さのある舞台があることの方が多いことが分かった。

移動観覧席のホールは客席に勾配を取ることができるのに対し、手並べ椅子のホールでは、客席勾配を得られないことがほとんどである。そのため、手並べ椅子のホールには、高さのある舞台が必要になるのではないかと推測できる。

平床使用時に、舞台を含めて完全に平床として利用するタイプのホールは、移動観覧席のホールの方が多いと考えられる。平床時にどのような使い方をするのかによっても、移動観覧席にすべきか、手並べ椅子にすべきかを考える手掛かりになる。

3.3 年間稼働率

移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールの年間稼働率を比較すると、全体に、手並べ椅子のホールの方が高い傾向にあった(図4)。

0~20%と回答したホールを10%とみなすなどして求めた年間稼働率の平均はそれぞれ、移動観覧席のホールで約49%、手並べ椅子のホールで約57%となった。このことから、手並べ椅子のホールの方が年間稼働率は高いということが分かった。手並べ椅子のホールには高い需要があると考えられる。

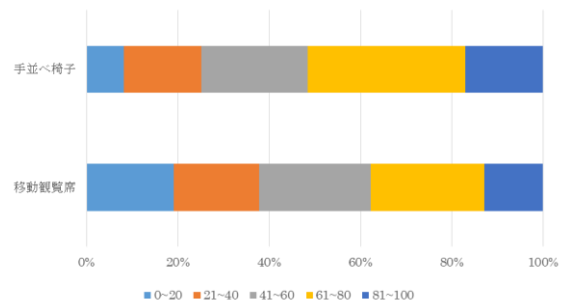


図4 年間稼働率の比較

3.4 椅子使用率

(1) 移動観覧席のホールの椅子使用率

利用日数のうち、どの程度の割合で椅子を設置しているのかを聞いたところ、移動観覧席のホールでは、椅子使用率にあまり偏りが見られなかった(図5)。

椅子使用率が高くほとんど椅子使用のホールから、反対に、ほぼ平床使用のホールまで、使われ方は様々であり、特定の椅子使用率のホールが多くを占めている、などの偏りがないことが分かった。このことから、椅子使

用・平床使用、どちらを重点的に使うのかという視点からみると、様々なタイプのホールがあるのではないかと推測できる。

また、椅子使用率が 0～20%と回答した場合には 10%として平均の椅子使用率を求めたところ、約 52%となったことから、わずかに椅子使用に傾いているとはいえ、椅子使用率に偏りは無いということが分かる。

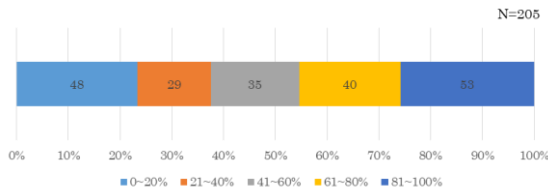


図5 椅子使用率（移動観覧席のホール）

(2) 手並べ椅子のホールの椅子使用率

手並べ椅子のホールでは、全体に椅子使用率が高く、約 56%ものホールが、ほとんど椅子使用（椅子使用率 81～100%）で使用していることが分かった（図7）。

椅子使用率が 0～20%と回答した場合には 10%として平均の椅子使用率を求めたところ、約 70%となり、基本的に椅子使用率が高いことが窺える。

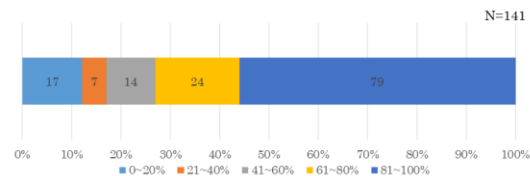


図6 椅子使用率（手並べ椅子のホール）

(3) 椅子使用率の比較

椅子使用率を比較すると、手並べ椅子のホールの方が、椅子使用率が高い傾向にあるということが分かった（平均椅子使用率は移動観覧席のホールで約 52%、手並べ椅子のホールで約 70%）。

移動観覧席において「移動観覧席を収納」した場合にはテーブルと手並べ椅子両方を使う催し物などを含めてすべて「平床使用」だと捉えているのに対し、手並べ椅子のホールでは、椅子とテーブルを使う催し物など、椅子を利用した場合には全て「椅子使用」だと捉えているため、平床使用・椅子使用の定義に差が出たのではないかと考えられる。

3.5 平常状態

(1) 移動観覧席のホールの平常状態

ホールで催し物が行われていない時の状態を平常状態として質問したところ、移動観覧席のホールでは、平常状態が「椅子使用」と答えたホールが約 38%、「平床使用」と答えたホールが約 31%、「次の演目」と答えたホールが約 20%となっていた（図7）。

移動観覧席の機構上安定しているのは、椅子を展開した状態であるので、本来は椅子使用を平常状態とする方がよい。しかし、平床で使用されることが多いホール

（椅子使用率では、約 26%のホールがほとんど平床でホールを利用していることが分かった）や、準備のために次の演目にしておく場合には必ずしも椅子使用が平常状態とはならないため、このような結果になったと考えられる。

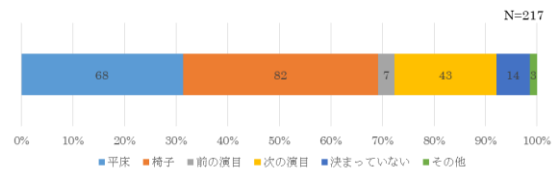


図7 平常状態（移動観覧席のホール）

(2) 手並べ椅子のホールの平常状態

ホールで催し物が行われていない時の状態を平常状態として質問したところ、手並べ椅子のホールでは、平常状態が「平床使用」と答えたホールが約 71%、「椅子使用」と答えたホールが約 18%、となっており、平床使用が平常状態であるホールが特に多くなっていた（図8）。

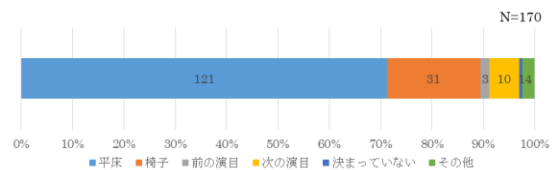


図8 平常状態（手並べ椅子のホール）

椅子使用率でみたように、手並べ椅子のホールは椅子使用率が高かった。椅子使用率が高く、平常状態は平床が多い、となると準備や片付けが頻繁に行われていると推測でき、手間の負担があるのではないかと考えられる。

4. 平床ホールで行われている催し物

平床ホールにおける催し物を調査した。アンケートでは、椅子を使用して行う催し物と椅子を使用せずに平床で行う催し物を分けて回答してもらった。移動観覧席の場合は、移動観覧席を展開して使用する場合を椅子使用、収納して使用する場合を平床使用としてある。さらに、椅子使用、平床使用それぞれの場合において「主な催し物3つ」も回答してもらった。椅子使用率でも述べたように、移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールで「平床使用」と「椅子使用」の定義に対する認識に違いがあると思われる。（移動観覧席のホールでは、手並べ椅子やテーブルを使用したとしても移動観覧席を収納していれば「平床使用」となるが、手並べ椅子のホールでは、そのような催し物は「椅子使用」となる。）そこで、全体としてそれぞれのホールで行われる催し物にどのような違いがあるのかを比較する。そのために、主な催し物3つとしたときの、椅子使用と平床使用の催し物の回答率を合計したものを比較していく。つまり、椅子使用、平床使用に関係なく、よく行われる（主な3つ）催し物を比較した。

その結果、椅子利用・平床利用関係なく、お互いに比べて多く行われる催し物はそれぞれ、移動観覧席のホールでは「講演会」「コンサート」、手並べ椅子のホールでは「展示」「練習室」であることが分かった（図9）。

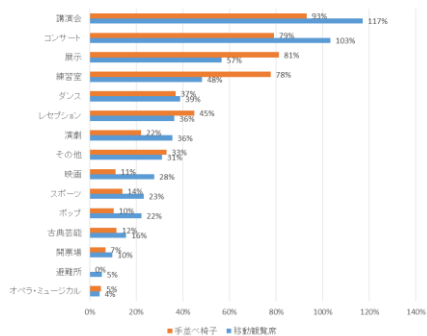


図9 3つの催し物合計の比較

4.1 椅子使用における催し物

平床ホールにおける催し物のうち、椅子を使用して行われる催し物について調べる。

移動観覧席のホールにおいては、その特性上客席が階段状となる。それに対して、手並べ椅子のホールでは客席部分が、ほとんどの場合が手並べ椅子又は連結椅子であるため、客席に勾配はないことが一般的である。これら客席の特徴により、それぞれホールの利用に差が出るのが予想される。そこで、移動観覧席のホールと手並べ椅子のホール、それぞれ椅子使用で行われる催し物にはどのような違いがあるのかを比較した。

催し物の中でも、上位のグループをみると、基本的に移動観覧席のホールの方が回答率が高い（図10）。差が大きくなっていったのは「映画」「演劇」などであり、これらの催し物は、移動観覧席のホールの方がよく行われることが分かった。客席に勾配を取ることができる移動観覧席では、見る事が重視される演目においてより有利になったと考えられる。

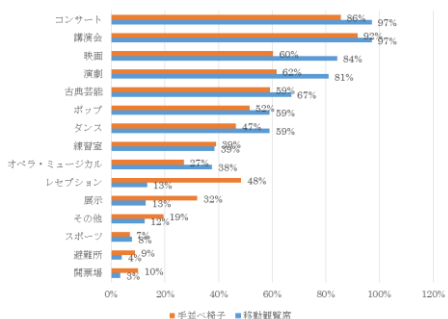


図10 椅子使用全ての催し物の比較

手並べ椅子のホールで回答率が高くなった催し物は「レセプションパーティー」「展示」などであった。これらの催し物は、移動観覧席では手並べ椅子等を使用した場合にも移動観覧席を収納している場合には平床使用という定義となるため、移動観覧席のホールで回答率が低くなったのではないかと考えられる。また、レセプションパーティーにおいては、手並べ椅子のホールの方が、

レセプションパーティーを許可しているホールが多いということもあり、これも手並べ椅子のホールで回答率が高い理由の一つであると考えられる。

4.2 平床使用における催し物

移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールで、平床使用時全ての催し物の回答率を比較する（図11）。

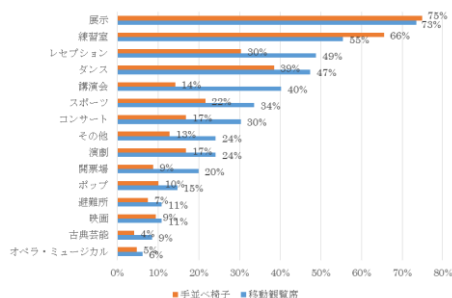


図11 平床使用全ての催し物の比較

椅子使用の催し物で比較した時は、回答率の高い上位の演目において、移動観覧席のホールの回答率が、手並べ椅子のホールを上回っていたが、平床使用の催し物ではこれが逆になっていた。つまり、上位2つの演目である「展示」「練習室」の回答率が手並べ椅子のホールの方が高くなっていった。多くのホールで行われる人気の催し物の回答率を比べると、椅子使用の催し物の場合は移動観覧席のホールの方が回答率は高く、平床使用の催し物の場合には手並べ椅子のホールの方が高いという結果になった。3位以降については、全ての催し物で移動観覧席のホールの方が回答率が高くなっており、移動観覧席のホールにおいて平床使用を多様な演目で活用していることが窺える。

レセプションパーティーや講演会の回答率は移動観覧席のホールの方が高かった。これらの催し物については、やはり平床使用の解釈の違いが原因の一部となっていると考えられる。解釈の違いの影響を受けない催し物として、スポーツが考えられるが、これについては移動観覧席のホールで回答率が高く、手並べ椅子のホールより多く行われていると分かった。

5. 長所・短所

5.1 長所

(1) 移動観覧席のホールの長所

移動観覧席のホールに長所を聞いたところ、最も回答が多かったのが「多様な催し物に使える（約89%）」、次いで「平床にすることにより可能な催し物がある（約81%）」「避難所・災害時の備品の仕分け場など災害時の対応がしやすい（約35%）」「手並べ椅子に比べて楽に設営できる（約26%）」「平床使用より視線を確保できる（約21%）」となっていた（図12）。

(2) 手並べ椅子のホールの長所

手並べ椅子のホールに長所では、最も回答が多かったのが「多様な催し物に使える（約91%）」、次いで「椅子

を自由に配置できる（約 77%）」「固定席と比べて掃除などの管理がしやすい（47%）」「バリアフリーであること（約 33%）」「避難所・災害時の備品の仕分け場など災害時の対応がしやすい（約 23%）」となっていた（図 13）。

（3）長所の比較

移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールの長所は、共通して「多様な催し物に使える」が最も回答率が高い。また、2番目に回答が多かったのは、移動観覧席のホールでは「平床にすることにより可能な催し物がある」、手並べ椅子のホールでは「椅子を自由に配置できる」と、催し物に応じて自由にホールを使えることが長所として認識されることが多いことが分かった。移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールは、別々の特徴を持つホールでありながら長所は共通していることが分かった。

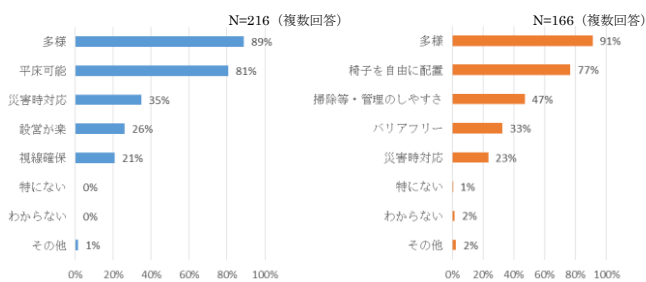


図 12 長所（移動観覧席） 図 13 長所（手並べ椅子）

5.2 短所

（1）移動観覧席のホールの短所

移動観覧席のホールに短所をきいたところ、最も回答が多かったのが「コストがかかる（約 62%）」、次いで「客席が貧弱（約 45%）」「通路を歩く時うるさい（約 44%）」となっていた（図 14）。

（2）手並べ椅子のホールの短所

手並べ椅子のホールに短所では、最も回答が多かったのが「客席の準備・片付けに手間がかかる（約 57%）」、次いで「平床のため客席の勾配が取れず後ろの席から舞台が見えづらい（約 51%）」となっていた（図 15）。

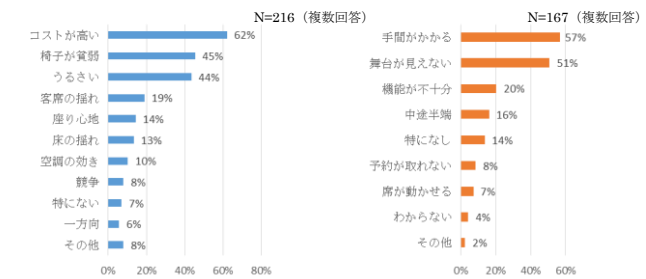


図 14 短所（移動観覧席） 図 15 短所（手並べ椅子）

（3）短所の比較

移動観覧席のホールの短所で回答率が高かったのは「コストがかかる」「客席が貧弱」「通路を歩く時うるさい」となっており、手並べ椅子のホールでは「客席の準備・片付けに手間がかかる」「平床のため客席の勾配が取れず後ろの席から舞台が見えづらい」であった。どちら

の回答も、移動観覧席と手並べ椅子、どちらも特有の短所が上位となっていた。移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールでは、長所は共通していたが、短所はそれぞれホールの性質により異なっていた。長所が共通している以上、デメリットの面からどのようなタイプの客席がよいかを検討することも有効であると考えられる。

6. 平床ホールの将来に対する意見

（1）今後移動観覧席に求められていること

移動観覧席のホールに対し、今後、新たに移動観覧席を導入するとしたら何を求めるのか聞いたところ、最も回答が多かったのは「短時間で簡単に収納、展開できるようにしてほしい（約 51%）」となっていた。次に多かったのは「座りやすい椅子にしてほしい（約 30%）」「椅子のグレードを上げてほしい（約 29%）」「着脱手すりを常設にしてほしい（約 29%）」で、同程度の回答を得ている。

移動観覧席のホールでは、手間と準備・片付けにかかる時間の軽減が求められていることが分かった。「着脱手すりを常設にしてほしい」もこの意見の一部といえる。

また「座りやすい椅子にしてほしい」「椅子のグレードを上げてほしい」も近い意見であり、椅子についても改善が求められていると考えられる。

（2）手並べ椅子のホールの改善点

手並べ椅子のホールに改善点として何を求めるのかを聞いた。最も回答が多かったのは「椅子利用時の手間（椅子を並べる・収納する）を軽減してほしい」で約 38%の回答が得られた。さらに次の質問で手間軽減の方法として望ましいのは何かを聞いたところ、最も回答が多かったのは「椅子を軽くしてほしい（約 44%）」次に「椅子の設置・収納を自動化してほしい（約 26%）」となっていた。その他には「特になし」が多く、「利用者が行う」などの内容の意見があった。手並べ椅子のホールでは、椅子利用時の手間の軽減が求められており、その方法としては、椅子の軽量化が望ましいということが分かった。

7. 総合考察

（1）席数や舞台等の比較

手並べ椅子のホールと移動観覧席のホールを比較すると、席数からみた規模は手並べ椅子の方が小さく、移動観覧席のホールの方が大きい。

舞台については、移動観覧席のホールは高さのない舞台が多いが、手並べ椅子のホールは高さのある舞台を持つことが多い。移動観覧席のホールは客席に勾配を取ることができるが手並べ椅子のホールでは取れないことがほとんどであるため、高さのある舞台が必要になるのではないかと推測できる。可動舞台は手並べ椅子のホールの方が多く、移動できる舞台を持つホールなどもあり、舞台を使用せずにホールを利用できる手並べ椅子のホールも少なくないことが分かった。しかし基本的には、平床使用時に舞台を含めて完全に平床として利用するタイプのホールは、移動観覧席のホールの方が多くと考えられる。平床時にどのような使い方をするのかによっても、

移動観覧席にすべきか、手並べ椅子にすべきかを考える手掛かりになる。年間稼働率は移動観覧席のホールに比べ、手並べ椅子のホールの方が高い傾向にある。椅子使用時の貸出費用が異なるホールは移動観覧席のホールの方が多いが、どちらのホールも貸出費用は同じであることの方が一般的である。飲食を伴うレセプションパーティーは、手並べ椅子のホールの方が許可されていることが多く、主な催し物としても手並べ椅子のホールの方がより多く行われている。ホールの椅子使用と平床使用の切り替えは、わからない、その他の回答が多く正確な事は分からないが、手並べ椅子のホールの方が多く切り替えが行われていると推測できる。

(2) 準備の手間

手並べ椅子のホールは椅子使用率が高く、平常状態が平床であるため、準備・片付けが頻繁であり、手間がかかるのではないかと推測できる。この「準備・片付けの手間」については、短所での回答でも最も多く約 57%のホールが短所だと認識していた。また、改善点を聞いた場合にも「準備・片付けの手間を軽減してほしい」は最も回答が多かったが、回答率は約 38%と、移動観覧席よりも少ないくらいであった。このことから言えるのは、準備や片付けにかかる手間は、短所だと認識されているとしても、そこまで改善が求めているわけではない、ということと思われる。しかし、改善点の中で最も回答が多かったのは「手間を軽減してほしい」であったので、改善する必要があると考えられる。さらに、手間軽減のためには、どのような方法が望ましいのか、も聞いたところ「椅子を軽くしてほしい」が最も多く約 44%の回答が得られた。また、手並べ椅子のホールでは、机やテーブルを使用した使い方をするホールも多く、これらの要素も手並べ椅子のホールにおいては重要になると考えられる。そのため、椅子と同様に準備や片付けへの配慮が必要である。「準備・片付けの手間」は、移動観覧席に比べ、かかる時間は約 1.5 倍、人数は約 2.1 倍、仕事量（単純な仕事量の比較として、かかる時間と人数をかけたものを比較した）は約 1.6 倍となっていた。手並べ椅子のホールでは特に準備・片付けにかける人数が多い。手並べ椅子のホールでは、人数を増やすことで時間を減らす、逆に少ない人数で時間をかける等の融通が利くが、移動観覧席に比べて、人数を増やすことで対応することが多いようであった。改善点では、人員を増やしてほしいと回答したのは約 9%であることから、問題は人手不足ではないといえる。前述のように今後の移動観覧席に求めることとして準備・片付けにかかる手間の軽減と回答した割合は、手並べ椅子のホールで椅子利用時の手間の軽減と回答したホールの割合より高い。準備にかかる手間も、人員も移動観覧席のホールの方が少ないが、手間の軽減を訴えているホールは移動観覧席のホールの方が多という結果となった。平常状態を次の演目としているホールも移動観覧席のホールが多い。

(3) 催し物

椅子使用・平床使用に関係なく頻繁に行われる催し物（主な催し物）として、移動観覧席のホールでは「講演会」「コンサート」、手並べ椅子のホールでは「展示」「練習室」が互いより回答率が高くなっていた。移動観覧席のホールでは、椅子使用寄りの催し物、手並べ椅子のホールでは、平床使用寄りの催し物が多くなっていた。椅子使用、平床使用それぞれ上位の演目の回答率は、椅子使用の時に移動観覧席のホールの方が高く、平床使用の時には手並べ椅子のホールが高いところからも、互いのホールに比べ、移動観覧席は椅子使用寄り、手並べ椅子のホールは平床使用寄りの演目が互いに比べて多く行われていると推測できる。

椅子使用の催し物では、手並べ椅子のホールに比べ、移動観覧席のホールで見ることが重視される催し物の回答率が高い傾向が見られた。客席からの舞台の見やすさが影響していると推測できる。また、手並べ椅子のホールで「客席から舞台を見やすくしたい」と回答したホールの催し物を調べると、全体の傾向に比べて、「演劇」「ポップ・ロック・ジャズ」「古典芸能」の回答率が特に高く、「ダンス（バレエ等）」の回答率も高くなっていた。これらの催し物を想定している場合には舞台の見やすさを考慮して計画をする必要があると考えられる。

(4) 長所・短所・計画理由

移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールは、長所、計画理由がどちらも共通しており「多様な催し物に使える」であった。多目的利用に期待し、それが実際に長所としても実感されているということが分かった。短所はそれぞれのホールの特色を表し、移動観覧席のホールでは「コストがかかる」「客席が貧弱」「通路を歩く時うるさい」、手並べ椅子のホールでは「客席の準備・片付けに手間がかかる」「平床のため客席の勾配が取れず後ろの席から舞台が見えづらい」となっていた。移動観覧席のホールと手並べ椅子のホールでは、長所と計画理由（導入理由）は共通していたが、短所はそれぞれホールの性質により異なっていた。計画理由と長所が共通している以上、デメリットの面からどのようなタイプの客席がいいかを検討することも有効であると考えられる。

[謝辞]ご協力いただきました、全国公立文化ホールの皆様に厚く御礼申し上げます。なお、本研究は平成 29 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(「公立文化ホールを長期利用するための方策構築に関する研究」(課題番号:17K06725)(研究代表者:勝又英明(東京都市大学))を得て実施されました。

【発表論文】

- 1) 小原あかり/千葉絵里子/堺皓亮/勝又英明：劇場・ホールの移動観覧席の利用実態（催し物）に関する研究-全国の公立文化ホールを対象としたアンケート調査による-日本建築学会関東支部報告集、2017年2月
- 2) 小原あかり/城所友莉奈/堺皓亮/勝又英明：劇場・ホールの移動観覧席の利用実態と活用に関する研究-移動観覧席が導入されている公立文化ホールを対象として（その1）-、日本建築学会大会学術講演梗概集、2017年9月